

対魔忍

ア○ギ

奴隷娼婦編

淫乱娼婦となったア○ギと
朝までねっとり和姦プレイ!



魔都——東京キングダム——

柄の悪い男や薬物中毒者、売人、娼婦たち
とといった社会の暗部を代表する
有象無象の者たち……。

その人波を抜けながら奥へ奥へ
入り組んだ道を進んでいくと
徐々に人影が少なくなっていく。

悲鳴をあげても誰にも届かないような
閑散とした廃墟同然の一角——。

——そこにひとつの娼館があった。



「お兄さん♡」

「っふふ♪ こんばんわ♡

おどろかせちゃった?」



「こんな時間に、こんなところを一人で
ふらふらしていたら危ないわよ。
どこかに用があるの？」

そう………だったらどう？
うちのお店で遊んでいかない？



私と朝まで一緒にいれば安心安全。
……それに、とっても気持ちいいわよ？

それとも………私じゃお気に召さないかしら？」

「っふふ！ 良かった。
まんざらでもなさそうね。

私はアサギ。
奴隷娼婦のアサギよ。よろしくね。

コースはいろいろあるけど、
お金があるのなら一晩申ラブラブコース
でザーメンが空っぽになるまで遊んで
もらうのがオススメよ。



あなた、たくさん溜まっちゃってるって
顔してるし……ね？ それにしましょう？

それにせっかくなら、
早く決めたほうがたくさん遊べるわよ。

「え……う？」

どうせなら他のお店や他の女の子も見てみたい？

でも……やっぱり私が一番良かったってことに
ならないとも限らないでしょう？



そのとき私がまだここに立っていると
限らないのよ？

んもう……！！

優柔不断ね！」

「ほら……」

あなたに見られるだけでこおんなに
乳首勃っっちゃうの……♡
ねえ……。
おっぱい……触ってみる……?」

ええ。いいのよ。

これは無料のお試しサービス♡

ただし……服の上からよ?」



「あん♡いきなりわしづかみなんて……
男らしいのね……好きよ♡
どう？ 私のおっぱい……♡
あなたの好みに合っていれば良いんだけど……。」

なあに？ まだ悩んでるの？
あ、わかった！ あなたが私のおっぱい
いじってる間、オチンポがほったらかしに
されないか心配してるのね？

もうっ！ 失礼ね。
私そんなにサービスの悪い娼婦じゃないわ！

大丈夫。その間はちやあんとオチンポ弄って
あげるからあ♡

それだけじゃなくて、ディープキスもするわ。

お互いの唾液をねりっとり
交換しあいながら、おっぱい
とオチンポ弄りあうの……。
素敵でしょう？

おみ
もみ

ぎゅっ

はあっ……！！
想像したら余計に興奮
してきちゃった♡

ねえ見て……」

たむ
なむ

「ほら……♡
あなたに触られて、
もうこんなに染み作っちゃってるの……。

下着が小さい？ うふふっ♪

いいのよ♡

これは下着っていうより、
男の人に喜んでもらうための
ただのオマンコカバーなんだから……♡

オチンポ硬くしてもらえるのなら
どんな下着だって見せちゃうわ♡

チクッ♡

ツルッ

って、ああんっ！ダメよ！
中に手を入れるのは……！」

「ああっ！ ちょっと！ ダメよ！
約束が違うわ！
触るのは服の上からって言ったでしよう！！

それはおっぱいだけ？ こんなに濡らしてるから
して欲しいんだらうですって？

そんなこと——ああっ！ 指入れちゃ——ああっ！！

ダメダメダメ！
乳首キュツツキュツキュされながら指でオマンコ
かき回されたらすぐイっちゃう！

いやっ！
誰かに見られたら——

んんっ！！
あっ！
キュキュキュ！！

イっちやう！
道の真ん中で
まだお金も出してない
相手に手マンで
イかされちやうっ♡



「はあっ……はあっ……！
こんなっ……道端で……
イカされちゃうなんて……♡

あなたひどいわ……まだ買ってもいない娼婦
相手にこんなことするなんて……。

ダメよ……女の子はこういうことされると
オチンポのことしか考えられないメス豚に
なっちゃうんだから……

今さら買わないだなんて
言わせないわよ

ああ……今夜は……
楽しい夜になりそう
ね……♡



「さ、これで正真正銘二人きりよ。

防音処理もされてるから、ちよつとくらい
大きな声出しても大丈夫。

我慢なんてしないで、気持ちいい声たくさん
出してね

え？　ここでなら私を思い切りイかせても

いいか？

うふっ♥　もちろん私にエッチな声たくさん
出させるように頑張ってくれてもいいのよ。

「ご主人様のオチンポ気持ち良い！

雌豚アサギの卑しいオマンコ、
ご主人様のオチンポで慰めてください!!」

って叫んじゃうくらい、
いっぱい気持ちよくしてね？」



「じゃあ最初は……。」

っふふ、わかったわ……。
おっぱいがほしいのね。

もう……！！

そんなに熱心に見つめてくるんだもの……。
誰にだってわかるわよ。

それじゃあ……脱ぐわね……♡



「ああ……」

おっぱい丸出しになっちゃった……♡

どうかしら？

ぶるんっ♡

ゆめっ

大きさは申し分ないと自分では思ってるけど……
大きすぎるのはイヤだって人もいるでしょう？

気に入ってもらえるといいんだけど……。

「もう……!! そんなにじろじろと……
ううん、喜んでもらえるのはうれしいけど、
やっぱり恥ずかしいわ……♡
その視線だけで勃起しちゃいそうよ……!!

でも良かった。その様子だとひとまずは
気に入ってもらえたみたいね。

じゃあ次は、触り心地を確かめてみる?
さつきは服の上からだったから、
直接触りたいわよね?
いいのよ、好きに……。

ドキ

ドキ

プガッ

どんな風に触ってもらえるのか、
私もドキドキしちゃうわ……♡」

「あん！ 最初は乳首だけ？
もうっ……いやらしい触り方ね。
ううん……好きよ♡

あっ♡でもっ——
乳首が勃っていくのをじっくり観察されるのは
恥ずかしいわ……♡ それにこの感じ……
もどかしい……！
もっと力強くつまんだり舐めたりしてほしく
なっっちゃう……♡

んっ……そうやって焦らして……
私を辱めるのが興奮するのね……。
ダメよ。女の子に恥をかかせるなんて……。
あっ♡

そうよ……私は胸の先っぽをちよっと
指先でくりくりされるだけで
いやらしいメスの顔になっちゃう
スケベ女よ……！



「うう……んっ！ いいわ……♡
乳首シヨシヨって擦られるの気持ちいい……
とっっても上手……んっ♡

ビッパッ

ああ……。
あつというまに勃起させられちゃった……。
オチンチンみたいなの勃起でしよう？
恥ずかしいわ……。

ツツツ

ぐんぐん

でもこれで、
あなたのお口に
入れても恥ずかしくない
勃起乳首になったわね。

びっぴ

今度はそのお口でたくさん吸ってちようだい♡

「私の勃起乳首、大きくてぷりぷりして、
しゃぶりがいいのあるいい乳首でしょう？
あんっ！ そうよ、それに感度だって、
すごくっ……いいんだからあ！
んんっ——！」

れろお、

ん？
すごくおいしいからもっとなめていたい？
ええ、もちろんですよ。
そんなに気に入ってくれるなんて
とってもうれしいわ♡

しつこいだなんて思わないから、気の済むまで
何時間でも愛してちょうだいね……♡」



「うんっ……あっ……はああん♥
もうっ！ 違っわ……！ これ、はっ……
あなたが、思ったより上手っ……だからっ——

んっ♥
ええ大丈夫よ。

もみもみ

たらっわ……

ガッ
ガッ

ちよつとだけイっちゃったけどまだぜんぜん
平気——



「はあっ……はあ……

もう……!! おっぱいばかり何時間苛める
つもりなの?

乳首だけで何回もイッちゃうのが面白くて
夢中になっちゃう? んもうっ!

そうよ、

わたしの肉体は男の人の性欲に
応えちゃうようにできてる全身性感帯だからあ!
イケって求められながら弄られると断れなくて
すぐイッちゃうのよおっ!

あっあっ! ハァ

ハイ

でももう

お願いだから乳首許してっ!

これ以上さらしたら私っ!

……ねえ、あなただって私のオマンコで

気持ちよくなりたいでしよう?」

ネろろろ

ネろろ
ハッ

ハァ
ハァ
ハァ

ハッ
ハッ



あー
あー
あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー

あー
あー
あー



「もう……♡
男の子は本当におっぱい大好きね
こんなに入ってもらえて……
私も……あっ♡
しゃぶられたいが……あったわ……♡

れろ
れろ

ビクッ
ビクッ

ビクッ
ビクッ

あっ♡
またイ……ク……♡

あめ
あめ
あめ



「ああ……もうこんな時間に時間が経ってたのね
おっぱいだけで何回もイカされちゃうなんて……
ううん。そんなことないわ。
こんなにおっぱいで気持ちよくなったのは
久しぶり……。」

とっっても情熱的で……素敵だったわよ♡

さ、次は私の番♡

たあ〜っぶりお返ししてあげる。
ほら、はやく横になって……。」

イヤだって言ってもやめないから
覚悟してちょうだいね……♡」



「うふふっ♪」

もうこんなに勃っちゃって……期待しちゃうの？

とっってもいい乳首ねえ。

もうこんなにビンビンになってる……♪

私、素直な子は大好きよ♡
いい子だから……
たああっっぷりー♡
可愛がってあげる♡
ふふっ♪

ドキ♡

ドキ♡

むにゅっ♡

さわさわ……さわ……コリッ。

「んもう……!」
逃げちゃダメよお?
力も抜いて?

乳首に意識を集中して、
快感を漏らさず受け止めるの。
ほら、素直になっ……。

乳首も立派な性感帯なんだから、
ちやあんと開発しないと、
とろっとろに蕩けるような
最高の快楽を
味わえないわよ?

グリッ

ひく!!

乳首だけでイけるようになって、
私とのセックス、
もっともおっつと楽しめるようになりまし……?

ね?」

「ほら、私の目を見て……♡
人も妖魔も夢中になる最高級奴隷娼婦が
あなたの乳首、いじっちゃってるわよ。

どう？ 興奮する？
いいわよ答えなくて。
あなたの乳首はとおっっっつても
興奮するって言ってる♡

ふふっ。私も同じ♡

爪の先でかゝるゝくひっかくだけで
あなたの体、ビクンビクン震えて……。
こんっふふ♪
こんなもの、最高に興奮しちゃうわ♡」

ニリニリ

ぱんっ

ニリニリ



「あら、ごめんなさい。
私ったら……」

こっちの乳首がほったらかしだったわね。
さびしかった？

じゃあ……

ズ
ク
ク
ク

ヒ
イ
イ
ツ

クリ
ツ

っふふ♪

気持ち良かった？
こっちの乳首は指で弾いてあげる
ことにするわね♥
うれしいでしょう？」



コリコリ……コリッ……。

「ねえ、気持ちいい？」

あなたみたいなの大の男を指先ひとつで悶えさせるのってとっても興奮するわね♡

気持ちいいけど、オチンチンほどの性感帯じゃないからもどかしくて切ない……って感じかしら？

もうやめてほしい？

ふふっ、もちろんダメよ……♡

あなたも私の乳首あんなに弄くりまわしたんだから、お返しよ。

それに……

にこっ♡

音をあげるくらい乳首いじめぬいて、私があなたに負けないくらいの変態淫乱女だってわかってもらわないと、メス奴隷娼婦として恥ずかしいもの♡

んんっ
んんっ
んんっ

くっ
くっ
くっ

「ああ……
あなたより先に私の方が我慢できなくな
ってきちゃった……♡

こんなにあっつくりと膨らんで……♡
すごくいやらしい……♡
もう完全に食べ頃ね。
我慢できないわ。

ねえ——、

れちお……♡

そろそろお口で味わってもいいかしら？

いいわよね？
それじゃ、いただきますあ〜す♡」



「あはあっ♡
ほら見てえ……
あなたの勃起乳首、しっかり私の舌に
引っ掛かっている……♡

はあ……っ！
いやらしいわ……！
こんなエッチな乳首、
薄いシャツ一枚でしか隠さずに
出歩いてたなんて……♡

もしも昼間に街中で
こんな勃起乳首見つけたら、
尾行して痴女っちゃうわね

満員電車の中で人に押される振り
して正面から密着してえ——

こうやってこっそり
目を合わせながら
服の上から舌先で……

ひょっ……

ぬらぬ……

れろおっ……!!

「っふふ♥

気持ちよかったのね。

お腹にかたあ〜いオチンポ
当たってるわ。
今にも破裂しそうに
ビクンビクン飛び跳ねてる……

良い反応……♥
じゃあこの調子で続けるわね」

わろっ♥

カリッ♥

わろっ



「んっっっっっっっ！
はあっ………！！
若いオス乳首素敵………！！
れろっ♡
れろっ♡
ひく

こんっ♡
こんなの、
何時間でも夢中になって
舐め続けちゃうわよお♡

ううん。
一晩中可愛がってあげたいわ。
そしたらきつと女の子みたいに
大きくなって、
服が擦れたただけで勃起しちゃう、
雌豚好みのおっちゃんらしい
乳首になるわよお………」

かりかり
かりかり

れろっ
れろっ
れろっ
わおっっっっっっっ！！

「きつと今以上にモテるようになったっちやうわね
でも一晩中は無理だから、
また私のこと指名してね？
毎回ちよつとずつ、乳首特訓しましょう？」

とりあえず、今日は2時間だけね？

んっんっんっ……！

れろれろれろ……

ちゅっちゅっ……

ちゅぱっ♡

はあ〜……美味し♡」



んぢゅっ

ちゅぱっ

ぐりっ

ぐりっ

ぐりっ

「あはっ……♡
どうしたのお辛そうな顔して……
女の子が頑張ってるのに
そんな顔しちゃダメよ……。

それに――、
快楽には素直に身を任せなきゃ……
ほら……声出してもいいのよ。
あん♡ あん♡ って
女の子みたいに喘いでみて？

そうしたらもっと気持ちよくなれるし、
もおーっと、やる気でてきちゃうから♡

ええ？ やる気出してほしくないの？
でももうやる気入っちゃってるから、
声出さないつもりなら、
出させてみせるわよお♡

そしたらもっと興奮しちゃって、
やっぱり朝までこのままかも……

ふふっ♪
それはそれで面白そうね
もしこのまま朝まで続けたら、
いったいどうなっちゃうの
かしら？

男の子の体って興味がつきないわね」



「ほらほらあ！」

乳首気持ちよくなってきたんじゃない？
コリッコリに硬あくなっちゃてる……

ねえ……こうやって指で
コリコリされるのと、
口でちゅぱちゅぱされるの……
どっちが気持ちいい？

どっちも気持ちいいわよねえ？
男の子はみいんな乳首いじられながら
オチンチンシッコシッコされたいんでしょう？

でもダメ♥
あなたにはもっともっとと乳首の良さを
知ってもらわなきゃ♥

え？ 私が乳首いじりたいだけだろうって？

ふふっ、正解♥
私、オス乳首ばっかり何時間もしつこく
責めるの大好きな変態なの♥

気持ちいいけどイけなくて
辛そうに喘ぐ姿がたまらないの♥

ごめんなさいね。
でもあとほんの数十分だけだから、
もうすこし我慢しましょうね♥

ぢゅっ

ぐりぐり

ぐりぐりぐり

ぢゅるるるるるっ！

ぢゅっ

「うふふはあ……はあっ……♡

ごめんなさい……
ついつい夢中になってしまった……。

やりすぎちゃったかしら？

あら……もうこんな時間？

予定より長くなっちゃったわね。

だけど、乳首だけでイけるようになるには
このくらいで音をあげてちゃだめよ？

日々の積み重ねが大事なんだから……。

次回はもっともつと気持ちよくなる
練習しましょうね？

たっぷり付き合ってあげるから……
うふふ♡



「ふふっ。それは嬉しいわ。」

ご主人様じきじきに
羨けてもらえるだなんて……、
奴隷冥利につきるわね。

でも私、

何をされても喜んじやうような
変態マゾ奴隷よ？

キス♡

わくわく

ご褒美にしかならないと思うけど……

それでもいいかしら？」



「あは♡ わかったわ。
騾の前にオチンポ様にご奉仕すればいいのね？」

はあ……嬉しい……♡
やっとおチンポが舐められるわ……♪

乳首もいいけど、
やっぱりこっちもいたただかないとね……。

え？ 違う？
これが騾？

乳首ばかりしやぶりたがる悪いお口を
オチンポでおしおきするってこと？」

「もう！　なんだっていいわ！
私みたいな変態マゾメスがこんな鼻先に
オチンポ突きつけられて我慢できるわけない
じゃない……！」

パンツごしの匂いだけで頭がくらくら
するんだから……！」

ねえ……、
オチンポしゃぶらせてくれるんでしよう？
ほら、もうこの状態で10秒以上経ってるわ……
さあ……早くパンツを脱いで……。

あなたのギンギンのオチンポ
私に挿ませてちょうだい？」

「ああ〜んすごい……!」
これがご主人様のオチンポ……♡
すごい匂い……!」

むわっ

まだ舐めてもいないのに
我慢汁に濡れてぬらぬらいやらしく
てかってる……。神々しくて素敵だわ。
やっぱりオチンポっていつ見ても良いものね。
これだけはまったく飽きる気がしないわ……♡

これからこのチンポが気持ちよくしてくれると
思うと……はあん♡
愛おしくてたまらなくなっちゃう」

「ああ……とっってもおいしそう……」

堪らないわぁ♡

んんん
んんん

じゅるっ♡

じゃあ……

早速いただきちゃうわね……♡」

「えっ？ まだ舐めちゃダメ!?
『待て』ですって!?

——そんなっ! 一体どういうことっ!?
生オチンポ目の前にして何もさせてもらえない
なんて……!?

ハイそうですかと
納得できることじゃないわよっ!?

何ですって? これが騷?

奴隷娼婦なんだから言うことを聞け?

くっ……! それはそうだけど——!

わ、わかったわ……『待つ』わよ……!

待てばいいんでしょ……!

あとでしやぶれることに変わりないんだから、
これくらい……!」

キッ!!!

（はぁ……はぁ……ぞくり……）

この子だってあれだけ乳首で焦らされて
つらいはずなのに……

ハイ

ハイ

ハイ

ハイ

ハイ

ああ……

ダメよ。ダメダメ……！

こんなのもう我慢できないわ……！

「ああ……！もういいでしょう？
まだ一分しか経ってない？
もう六十秒も経ってるってことじゃない！

ズボンの上からの勃起を見るだけでも
触りたくて堪らないのに、
こんな状況でおあずけなんて無理よ！

お願いだから早く命令してえっ……！
オチンポ気持ちよくするしか能のない変態
マゾ豚にチンポ舐めろって言うて——！
大好きなオチンポが目の前にあるのに何も
させてもらえないなんて拷問よ……！
いくら忍者が耐え忍ぶ訓練を積んでるって
言っても、これだけは耐えられないわ！」

「お願いよ……もうしゃぶらせて♡
オチンポしゃぶられるのは何時間でも
平気だけど、我慢するのは苦手なの……♡
こんなに良い匂いがしてるのに、
もうあと十秒だって耐えられないわ！

ハーッ♡

ああっご主人様っ！
きつと天国に連れて行ってさしあげますから
卑しいアサギにオチンポをお恵みください！

これからは乳首ばかり舐めません！
お口と乳首とオチンポと……
バランスよくご奉仕する三点責めを
心がけますからあっ！！

んんっ♪

アッ♡

れりゃっ



ず
ず
ず

ずずず

ちゅぽっ

じゅるる

ず
ず
ちゅ
ちゅ

じゅるる

ちゅ
ぬちゃ



おろろ

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

「ああん……………」
どうしたの？ ストップ？
私のロマンコ気持ちよくなかったかしら？

ちゅばんっ♡

それとも、気持ちよすぎて
いきそうになっちゃった？
もう…………♡
お口の中に出してくれていいのに…………。

え？ フェラじゃ駄にならないから
イラマチオにする？
そう…………それが駄のつもりだったのね…………」

「でも私、イラマチオ大好きよ。」

一突きされるたびに自分がオチンポ汁を搾り取るために生まれてきた卑しいメス豚だって肉体に刻み込まれてるのを感じるもの……♡

にーっ♡

それに、ご主人様の方から思い切り腰を振って喉の奥までオチンポねじ込んでくれるだなんてとっっても情熱的………奴隷冥利に尽きるわ。

ふふっ♡
だから私にとってはおご褒美になっっちゃうけど………
それでもいい？」

「でしたらご主人様……」

アサギの頭をしつかりとつかんで、
どうぞこちらにいらしてください。

ぬらぬら……

こちらのオナホールは奥まで入れると
味わいが変わってとっても
気持ちがいいですよ……ふふっ♡



んぐっ
↓
!

ガッ

ム

「びりびりっ！」

ぶふうっ！

んぐっ！

んぐっ！んぐっ！

ぐっ

んぐっ



「ぐうっ！ ぐうっ！」

「ぐうっ！」

「んぶうっ！ がぶっ！ んぐおっ！」

おぼろ

（ああっ……！ すごい打ちつけ……！
本当にまったく遠慮がないわ……！



本物のオナホールでもこんな本気で
打ちつけないわよっ……！

ああ、私本当にオナホールにされてるのね……！
ぞくぞくっ！！

おぼろ

おぼろ

「んっ！ んっ！
 んっおおおお！
 そうよお！ 感じてるわっ！
 喉奥にチンポ突き立てられるたびに
 感じちやうのおっ！
 乳首もマンコもキュンキュンして、
 それだけでぐしょぐしょに濡れちやうのおおっ！！

んぶおおっ！ んぶっっ！ 干

んっ！！
 んっ

んぶうっ♡

今私幸せ感じてるっ！
 一突きごとにメスの幸せ感じちやってるっ♡

アサギの喉奥にある幸せスイッチ
 ご主人様のチンポが押してくれるから、
 わたし今とっても幸せよおおっ！！

んっ

ぬ
 知の
 ぽ
 ぬ
 干

んっ

「あーっああっ!
『使って』え!!
遠慮なんてしないで!

もっと乱暴に!
物みたいに犯してっ!

ん

ん

ん
ん
ん

ん
ん
ん

ん
ん
ん

それがオナホマウスの
正しい使い方だからあっ♡

ん
ん
ん

ん
ん
ん



「あ……はあっ♡

んっ……んぐっ……

ぶ……っはあっ！

あ

ああ

こんなだ……いっぱい……♡

ああ……♡

おとね

ぎゅ



「んっ……んっ……!」

……はあっ♡

ハァ

ああ……ぷりっぷりの新鮮ザーメン
ごちそうさま♡
満足してもらえたかしら……?」

ハァ

ごくんっ

ええ?

気持ちよかったからもっど?

あん……♡ 最高の悦びですわご主人様♡

わたしの口は便器と同じだから、
トイレに行くくらい気軽に使ってくれると
うれしいわ♡

「ん……♡ん……♡

今度は私が自分で動くわね……♡

こうやって舌先でザーメンの出口を
チロチロされるのも良いでしょう？
ちよつと強めで……ほじるように……

なめむ

チロチロ
チロチロ

ハ
グ
ッ

うふふっ♪
ビクッビクッって……感じすぎじゃあう？

カリ首もちゃんと唇でしごいて……

あん♡
勃ってきたわ……♡

ん♡

チロチロ
チロチロ



ん♡

ん♡

ぎゅんぎゅん♡
ぎゅんぎゅん♡

ずるんんん♡
じゅんんん♡
んちゅ♡

ん♡
ん♡

ちゅん♡
ちゅん♡



あゝ〜♡

あゝ〜♡

あゝ〜♡

あゝ〜♡

「あん♡

出る？

出るのねっ!?

ん

ん

ん

ん

びくっ
びくっ

ハア
ハア

ハア
ハア

いいわ……いいわ!

ハイ

ハア
ハア

ハア

ハア
ハア

ザーメン便器に精液いっぱい出して!

ご褒美おもしろいっさきりぶっかけてえっ——♡



あ

あ...あ...あ

あ...あ...あ

あ...あ...あ

「あっ！
あああああ〜！
いっぱい……いっぱい……！
ザーメンいっぱい……！

こんなにあくさんのザーメン浴びられて
うれひいっつ！！

もっとピュルピュル出して！
ドロドロに汚してえっ！
オチンポ様の新鮮ミルク大好きなのお……♡」



「はあああああ……♡
この匂い……!!
たまらないわあ……♡

あー

いやらしい気持ちになって……

もっともっと欲しくなっちゃう……!!
発情しちゃうううう!!

有人愛♡

おはっ

「はあ……はあ……まだ……ダメよお……♡
当店のオナホールは……
オチンポ様の射精後のお掃除機能まで兼ね備えた、
最高級オナホールになってるんだからあ……!」

発射後の尿道内のザーメンまで
きちんと吸引しちゃうのよお♡

ん……

ちゅるっ
ちゅるっ
ちゅるっ

ほらあ、まだ尿道の奥に……
ちゅるっ……ちゅるちゅるちゅるっ……
……ごくくん♡

ふふっ、精液は作ってくれた男の人に
感謝しながら一滴も残さずいただくのが
マナーだもの♡
私、ちゃんとした女でしよう?」
ぞぞぞ

「はあ……ああ……」

さー……んお……♡

ん

ハア

ハア

ん

ん

ずっと口の中に頬張っておきたいくらい
しゃぶりがいのあるオチンポだったわ……♡

ハア……ハア……♡

ん

ハア



「え？ 写真の？
もちろんオーケーよ。

私の写真でオナニーしてくれらんだったら
いくらでも撮ってもらって構わないわ。

ふふっ、いやだわ。

最高に綺麗な私を撮りたいだなんて……♡

私もこんな素敵な白濁化粧をしてもらって
うれしいわ♡

じゃあ見るだけで勃起しちゃうくらい
いやらしく撮ってね♡



「さあっ、

そろそろ私のオマンコにオチンポ恵んでくれるんでしよう？

頑張っでご奉仕したんですもの。そろそろご褒美もらってもいいわよね？

それともたくさんヌキヌキしちゃったから勃たない？

大丈夫よ。

私オチンポ勃起させるの得意だもの。何度だって勃たせてみせるわ♥



ムッ

ムッ

ムラムラッ

もんもん

「え？ まだまだ大丈夫？

私みたいなエロエロボディのド変態メス豚
だったなら何発も犯したくなる？

っ——！ うれしい……！

さすがは私のご主人様ね。
私、変態に生まれて良かった。

そうよ。たくさんオマンコしてもらうために
こんなにいやらしく育ったんだから、
ずうっとオチンポ突っ込んでいてもらいたいわ♡

牝奴隷のアサギは、
オマンコにオチンポ入ってないと
寂しくて死んでしまうの♪

だから人助けだと思ってたくさん
オチンポずぼずぼしてちょうだいね♡」



「はい、どうぞ♡

これが今夜、
あなたが自由に使っていいオマンコよ♡
もうジユクジユクに濡れてるから、
そのまま突っ込んでやってね。

あなたもはやく気持ち良くなりたいでしょう？

ぬりっ...

ふふっ♪
あなたも気持ち良くなれて、
私も気持ち良くなれるんだから、
こんなに素敵なことってないわね♡

「ああ……ビンビンチンポお♡

そう……それよ……!

それをはやく
入れて欲しいの……♡

ぐんぐん

ぐんぐん

ひゅん

ひゅん

ハァ♡

ハァ♡

ほらほらあ♡
オチンポちゃん、こっちよ♡
いい子だからはやくいらっしやい♡

「あひええ………♡
ひもひいい〜！
おひんぽ気もひいいのおお〜！
はああああ♡
これひゆきい〜！
ひやいこう〜！

おひんぽおまんこに
突っ込んでもらうの
ぜんぜん飽きないっ♡



「あはあっ♡

どうっっ……かしらっ？

私のオマンコ……。

ぐちゅ

あつたかくて
ぬるぬるで……
オナホールより
気持ち良いでしょう？

ぐちゅ

ああっ……！！
でもすぐにイっっちゃダメよ……！！
もつとあなたのオチンポ味わわせて……！！

っっ♡

っっ♡

「あっ♡♡ あっ♡♡

ああっ!!

ええ……!!

い……いいわ!

ぬちゅっ

あなたの……

オチンポ——も!

すごくっ——

気持ちいいわよ……!!

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

子宮降りてきちゃっ……!!



「あ……………！」

ダメッ——！！

乳首いじいじされながらの
オマンコズコズコは
すぐイっっちゃうっ！

キツッ

コリコリになった
乳首マツサージ
気持ち良すぎちゃうからあっ！！

キツッ



「あん♥

おっぱい揉まれるのと乳首擦られるのどっちがいいかって？

あつ……んんっ!!

そんなのっ——

どっちもいいに

決まってるでしょっ!?

できることなら

おっぱい揉みしだかれながら

乳首もシコシコして欲しいわよっ!

ぐりぐりぐりぐり

んんんんんん

んん

あつ! それっ——いいっ!
えっ!? イっちゃう!?! ええ!
イって! 私の中でお漏らししてっいいわ!
!!!





「ほらっ！」

「いっちやいなさいっ!!!」

ズン
ズン
ズン

ズン
ズン

ズン
ズン
ズン



ハア

ハア

ハア

ハア

「あ……♡」
はあっ……♡
はああ……♡

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

「どうう？」

お漏らしししちゃいけないところに
お漏らししちゃう背徳感は？

気持ち良いでしょう？
ふふっ♪

え？

もう一回してくれるの？

今出したばかりなのに大丈夫？

このくらいじゃ満足できてないだろうから
まだしてあげる？

うれしい……♡
あなた、すごく優しいのね。
気遣いができる優しい男の人って素敵よ……♡
「





んっ
んっ

めっめっ

んっ

♡

めっめっ

めっめっ

3
2

1
4

「あ〜っ♡

出してえっ！

キンタマの中のザーメン
ぜんぶ私の
全身にかけてえっ！

新鮮濃厚
ザーメンパックで
雌豚淫乱ボディ
綺麗に飾ってえっ！！

がゆるるっ♡

びゅんっ♡
びゅんっ♡

んんんっ♡

んんんっ♡







「あはあっ♡

うれしいっ!

あったかい
ザーメンシャワーたくさん
浴びれてうれしいっ!

ひゅわーん
ひゅわーん
ひゅわーん

最高っ!

最高よっ♡

ひゅわーん
ひゅわーん
ひゅわーん

ひゅわーん
ひゅわーん

ひゅわーん
ひゅわーん

あーっ♡



「ああ……♡

こんな……

す……♡

あ……♡

す……♡

ハア♡

ハア♡

こんな……
こんな……

最高すぎるわよ……♡

あはあ♡



「ふふっ。

どう？ スッキリした？
今日は満足してもらえたかしら？

なんて……、
私の方が満足させて
もらっちゃったかしらね♡

こんなふう
に全身をザーメン
パックして
もらえるなんて……♡

あなたの味……たっぷり
と肌に染みこませておくわね……♡



「え？」

スッキリしたけど、
私の姿見てたらまた
ムラムラしてくる？

うふふっ♡ ありがとう♡
だったらまた一緒に
遊びましょう♡

約束よ♡

トキッ

それじゃあまたね♡

ご主人様♡」























































































































































































































































































































































































































